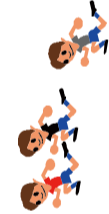
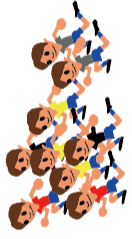
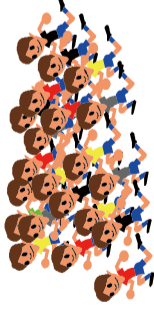


保護者の方へ

同じ学校で同じ授業を受けているのに、なぜ大きな学力差がついてしまうんだらうと思いませんか？



この素朴な疑問の解決こそ、生徒を伸ばすカギとなるものです。

難関国私立中在生も、中堅国私立中生も、区立中生も、それぞれの学校で在学生のレベルに合わせた「同じ授業」を「同じ先生」から受けています。

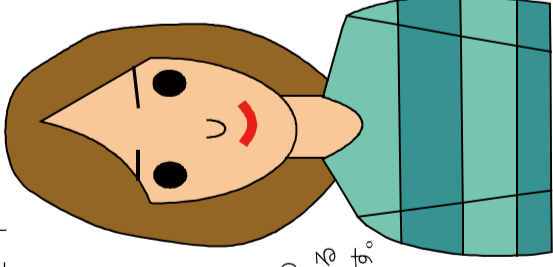
「同じ授業」を受けていながら、いつの間にかトップから最下位まで大きな学力差がついてしまうわけです。そしてほとんどの場合その学力差はどどんと拡がり、やがて「出来るグループ」と「出来ないグループ」がはっきりしてきます。学力別授業導入校では、格差はさらに決定的なものになっていきます。

ご両親が見て、「こんな簡単なことが、どうして出来ないんだらう？」と、思われることが多いと思います。

中学生が学校で受けている授業内容は、すべて基礎レベルのものです。「受験校」といわれる私立中学などでは、中学2年生で高校の数学に入るところが多数ありますが、スピードの違いであって、内容は基礎レベルです。

その部分だけ取り出して「教える」だけなら誰にでもできます。個別に特定部分だけを「わかる」ように説明するだけなら、ちよつと勉強のできる中学生にも出来ることです。「教える」「説明する」だけなら、時間さえ許せば、ご自宅でご両親ご兄弟で十分できます。

でも、ここでちよつと考えて下さい。目指すべきものは、わかるように説明したり「わかったつもり」にさせることではなく、生徒本人が「出来る」ようになることです。



学校差を考えることも重要です。

特にいわゆる受験校としての私立難関・上位中学と、区立中学。前者は、中学2年生の後半から高校数学に入り、後者は「ゆとりある教育」。求められる学力水準が違います。

慶應進学会中学生クラスでは、国私立中生のほうが多いのですが、区立中生もつつかり現実を見つめた「勉強」をして欲しいと思います。大学入試は、何のハンデもなく同一基準で行われます。

区立中生では、3年間ずっと学年1位という生徒が何人もいます。現在もいます。彼等は難関高校進学後も慶應進学会高校生クラスでも頑張る、難関大学に進学して行きます。

やるからできる できるから好きになる 好きだからやる

成績は徐々にではなく、ある時点から飛躍的に向上する

当り前のことですが、ご両親もかつては中学生だったわけですから。

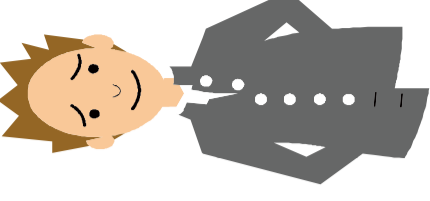
小中高生時代のことを思い出してみてください。

小学校時代は成績的にバツとしかかった生徒が、中学生になって急に伸びた例。

中学時代のある時点で飛躍的に成績を伸ばし、その後もグングン伸びていった例があったはず。

高校に進んだ後も同じような例がいくつもあったはず。

このような生徒は、その飛躍的に伸びた学期のテスト前に急に立って勉強を始めたわけではありません。伸びたのはその学期であっても、数ヶ月以上前からスタートしていたはず。正しい学習法です。



学習法を学習する

飛躍的学力向上のカギは、英語と数学の学習法にあります。

英語は中学1年のスタート段階から、数学は小学生時代からの基礎の積み重ねが完全に出来ているという前提のもとに、新しい単元が展開していきます。既習部分の定着が8〜9割またはそれ以下で「まあいいや。」と思っただけでは、いつまでたっても現状維持がようやうです。そして、学年が進むにつれてダウンしていきます。

既習部分の完全理解と定着のための総復習を、どのような生徒もまず第一にやらなくてはならないのです。英語と数学の総復習が完了し、学校授業の進度に追いつけば、後は学校でこれから習う部分を真剣に学習するだけで、成績は飛躍的に伸びるわけです。そしてこの成功体験は、自信とやる気を生み出し、全教科に波及します。

慶應進学会中学生クラスの学習指導システムは、生徒の内発的動機づけによる学習を促進するための援助を、あらゆる側面から行うものです。

(詳しくは、総合案内の「学習指導上の基本的考え方」参照)



わからないことや質問は、
頑張ろうと決意し、やり始めると、
次々と出てきます。



★具体的には、個別学習法指導と必要に応じてグループ授業の組み合わせで学習が進んでいきます。全体総復習は、必修季節講習で行います。平常時は中間テストが終わった日から、中間テスト範囲の再確認と期末に向けての学習。このプログラムをぬって「総復習学習」を、担当教師と相談しながら進めていきます。

やる気の継続が大切

「やる気」を出すのは簡単です。難しいのは「やる気」を継続させることです。6年間の試験期間を経て1994年度よりスタートした、慶應進学会の中学生クラスの「学習法を学習させる」指導システム。これは、1993年までの20年間の学習指導データと、教育心理学の学習理論より完成されたものです。



今日の質問は今日したい。わからない時すぐ質問できるように横に待機して欲しい。

中間・期末前。入試近い込み期間は毎日長時間勉強したい。たくさん参考書問題集の中から、自分に最適なものを選びたい。自分でも選べる。そのような生徒の立場に立った学習ニーズに出来る限り応えていきたい。この学習システムを、個別指導塾や家庭教師のように、やればよかっただけ学費が増大するなどというビジネスライクでない方法で実現したいと考え、増分費用負担なしで実施しているのが、慶應進学会独自の学習指導システム「学習クラブ」です。

大学受験生のために開発し、大きな成果を挙げ続けている独自の学習システムを、

中学生もフル活用できるようにしました。

個別指導塾に通っている生徒や、家庭教師を頼んでいる生徒は、是非比較検討して欲しいと思います。

中学生は、平常時の学習指導も全体一斉授業はおこなっていません。生徒毎の学習ニーズに応じた個別学習プログラムです。そしてさらに、週3日の決められた時間の個別学習以外に、週30時間のいつでも利用できる「学習クラブ」。在学生会は無料でこのシステムを使えます。個別学習ブースの専用学習室が完備され、学習指導助手は君たちの個別学習指導時間と同じ先生です。これは、常時家庭教師を隣室に待機させているのと同様の効果を発揮します。